

9. SR 循環器系の疾患 (I251 冠動脈疾患)

文献

Kwong JS, et al : Yoga for secondary prevention of coronary heart disease.

Cochrane Database Syst Rev. 2015 jul 1;(7):CD009506. PubMed ID:26130018

1. 背景

冠動脈性心疾患(CHD)の二次的予防の目的は既に CHD の診断を持つ人々の心臓発作の再発や死を予防することである。ヨガはストレスマネジメント法としても評価されてきた。様々な疾患に対するヨガの効果を示唆するエビデンスが増えてきている。

2. 目的

CHD 二次予防と健康関連 QOL におけるヨガの有用性をレビューする。今回のレビューは、前回のレビュー(2012)の改訂版である。

3. 検索法

The Cochrane Central Register of Controlled Trials (CENTRAL)(2014 年 1 号)、MEDLINE (1948 年~2014 年 2 月第 1 週)、EMBASE (1980 年~2014 年第 6 週)、Web of Science (Thomson Reuters,1970 年~2014 年 2 月 12 日) China Journal Net (1994 年~2014 年 5 月) WanFang Data (1990 年~2014 年 5 月)香港の中国語刊行物の索引(1980 年~) のデータベースを Cochrane sensitivity-maximising RCT filter を用いて検索。

他ジャーナル(Journal of Yoga and Physical Therapy, International Journal of Yoga Therapy)は手作業で検索。進行中の研究については metaRegister of Controlled Trials、WHO International Clinical Trials Registry Platform Search Portal で検索(2014 年 5 月)。言語による制限はしない。

4. 文献選択基準

CHD に対するヨガの効果を検討したランダム化比較試験 (RCT) であること。対象が 18 歳以上の男女、急性期及び慢性期 CHD の患者、追跡期間 6 か月以上のものである。ヨガの種類は問わないが、対照群が何もしない、またはヨガ以外のもの。主要評価項目：1.全死因による死亡数、2.心血管系死亡数、3.心血管系イベント数(心臓死、非致死性心筋梗塞、不安定狭心症、蘇生された心不全、脳卒中、心血管再建術)。副次評価項目：健康関連 QOL、費用。除外：多元的介入のもの。

5. データ収集・解析

筆者ら 2 名による。バイアスのリスク、推定値、CI、異質性、効果推定値は該当する研究がなかったため解析されていない。

6. 主な結果

- ・ 前回のレビュー後、新たに 54 の文献が初期のデータベース検索により検出された。
- ・ 該当する RCT はなかったため、CHD 二次予防におけるヨガの効果は分析できなかった。
- ・ 不適格となった 25 件の除外理由：RCT でない(7 件)、参加者が CHD 以外(6 件)、アウトカム報告なし(4 件)、追跡期間が基準外(2 件)、結果が入手不可能(2 件)、ヨガの詳細不提示(1 件)、併用介入(1 件)、記述的研究(1 件)、全文入手不可能(1 件)。
- ・ 有害事象：「ヨガと心疾患のレビュー」(Carmer 2015)によると本レビューで除外された Pal 2011 の研究でヨガ群死亡 1 名、Pal 2013 の研究でヨガ群 2 名、対照群 3 名。
- ・ 2012 年開始の研究「インドとアメリカでの心臓リハビリにおけるヨガの効果」(CIRI/2012/02/002408)は適格な可能性。(継続中)

7. レビュアーの結論

基準を満たす RCT がなかったため、CHD の二次的予防法としてのヨガの効果については依然として不明である。質の高い大規模の RCT が必要である。

スタッフ 陽子 柿木 里香 岡 孝和 2016年8月14日